宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

卯年にウサギ神社へ初詣

京都市左京区の東天王岡崎神社

参拝者を迎える“狛うさぎ”＝京都市左京区の岡崎神社

2匹のウサギが神の使いとして狛犬の代わりをする岡崎神社（京都市左京区、通称ウサギ神社）の正月は、今までにないほど初詣で賑わった。同社は、桓武天皇が平安京を延暦13年（794）に開いたとき王城鎮護のため四方に建てた社の一つで、東（卯の方位）に鎮座することから東天王と称された。辺りには野ウサギが数多く住んでいたので、ウサギが同社の神の使いとされた。ウサギ年にちなんでか参拝者の列は終日、鳥居から400メートルほどまで伸びていた。

同社の境内では、赤い目をした愛くるしいウサギの白い石像が対になって参拝者を迎える。このウサギを見て心和ませる人は多い。参拝した後は、ウサギと一緒に記念写真を楽しんでいた。

手水舎には、黒ウサギの石像がこちらにお腹を向けて立ち上がっている。月を仰いで、月の力を体中に溜めているそうだ。この黒ウサギの腹を水をつけてさすると、子宝に恵まれると言われる。手水舎の壁には、ウサギの絵が描かれた〝絵馬〟が懸けられていて、人々の願いが書き添えられている。また、小さな素焼きのウサギの人形におみくじが入ったお守りも売られていて、多くの参拝者が買い求めていた。

同社から歩いて10分くらいの所には平安神宮（京都市左京区）があって、今年は平安神宮に参拝した多くの人々が、岡崎神社にも足を運んだようだった。

今年の干支は「癸卯（みずのとう）」。癸は、十干である甲（きのえ）、乙（きのと）、丙（ひのえ）、丁（ひのと）、戊（つちのえ）、己（つちのと）、庚（かのえ）、辛（かのと）、壬（みずのえ）、癸（みずのと）の最後。十干は、中国の殷の時代に10日を「一旬」とし、それぞれの日に名前をつけたことに始まる。その後、万物は陰陽に分けられるとする「陰陽説」と、すべての物事は木、火、土、金、水の五つの要素からなるとする「五行説」とに結びついて、十干それぞれが意味を表すようになった。

卯は十二支である子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）の4番目。動物にはさまざまな意味が込められ縁起がよいとされている。

今年の癸卯の組み合わせは、干支では40番目にあたる。癸が水の陰のエネルギーを表し、卯が木の陰のエネルギーを表すという。癸卯の今年は、これまでの努力が実を結び勢いよく成長し飛躍する年になると考えられている。参拝者の多くは、コロナ禍も3年を超え、波状的に起きる大小のコロナ波に耐性を持ちながら、ウサギのように大きく跳躍したいと願っていた。

小さな素焼きのウサギにおみくじが入ったお守り

岡崎神社の祭神は、速素盞嗚尊（すさのをのみこと）、奇稲田姫命（くしいなだひめのみこと）、三女五男八柱御子神（やはしらのみこがみ）。速素盞嗚尊は、天照大御神の弟神で、出雲国の簸の川で十拳剣を振って八俣大蛇から奇稲田姫命を救い、「八雲立つ出雲八重垣妻隠みに　八重垣つくるその八重垣を」と初めて和歌を詠んだと言われている。

同社は建立された後、清和天皇が貞観11年（869）勅命によって社殿を造営、播磨国広峰（現兵庫県姫路市の北方）から祇園牛頭天王（速素盞嗚尊）等を迎えた。また後醍醐天皇が元応元年（1319）に再建している。

同社は、祭神二柱が三女五男八柱神の御子神をもうけたことから、子授け安産の神として、さらに出雲の簸の川で速素盞嗚尊が奇稲田姫命を八俣大蛇から救って姫と結ばれた故事から縁結びの神として、広く崇敬されている。

灯

「主を畏れる者は、このように行い／律法に精通する者は、知恵を捉える。知恵は、その人を母のように出迎え／新妻のように迎え入れてくれる。知恵は、彼に分別のパンを一口ずつ食べさせ／知恵の水を、飲ませてくれる。知恵に支えられれば、揺らぐことはなく／知恵を頼りにすれば、恥をかくことはない。

主の知恵は豊かで／その力は強く、すべてを見通される。主の目は、ご自分を畏れる人々の上に注がれ／主は、人間の業をすべて見抜いておられる。主は誰にも、不信心であれとは命じられず／誰にも、罪を犯す許しを与えられなかった。」（シラ書（集会の書）15：1―4、18―20）

ヘレニズムとヘブライズムが正面で対峙する時代に生きたイスラエルの民は、信仰と理性の調和を試みた。創造主を畏れ敬う者は、その方がはじめに立てた理法の探求にも心砕いた。彼らは自然の秩序の中にも、創造主の御手を読み取り正しい生き方を悟った。信仰者の人生観は広大な宇宙の体系を掴むところから始まる。彼らは子らに諭す。「主を畏れることは知恵の初め」。（I）

天地

暮と正月、天地子は二度命拾いをした。12月30日の午後、山裾のイノシシ除けフェンスの周りを草刈りし、焼却したところ山に延焼しそうになり、大急ぎで地下足袋をはいた足で踏み消したため、両足先に二度のやけどを負い、救急車で高松日赤へ。救急車に乗ったのは生まれて初めて。そのまま1月6日まで入院・治療し、退院。その後は近くの市民病院に通院▼そして15日の午後6時半、今年の稲作の作付けの会議を仲間3人として、30メートル先の自宅に帰ろうと、事務所を出て左折した途端、暗さと足のおぼつかなさのため、深さ1メートルの用水路に落ち、左手首と鼻を骨折した。再び救急車で高松日赤へ。主治医の皮膚科の女医さんが、「あら帰ったのじゃないの」。応急処置を受けて深夜に帰宅し、16日に市民病院の整形外科へ。17日に入院、18日に左手首を手術、鼻はそのまま経過を見ることにして、20日に退院した▼周りに伝えると、姉は二度あることは三度あるから、年の数だけ一円玉をもって薬王寺へ行ったらと。去年の腸閉塞を入れると三度目だと言うと、「三度終わったんだ」と喜んだ▼元消防士の農業仲間は「野焼きをしていて焼け死んだ遺体を何度も見た」と、編集仲間からは「近くで用水路に落ちて亡くなった老人がいた」と、それぞれ言われたので、田舎の老人にありがちな事故に遭遇し、命まで失くさなくてよかったと思うことに。後期高齢者の保険証も送られてきたので、少し生き方を変えようかと考えている。

社説

「ともいきのきずな」を地域から

環境革命の時代

ロシアのプーチン大統領は第二次大戦中、ナチスドイツとの激戦地となったボルゴグラード（旧スターリングラード）で2月2日開かれた、旧ソ連軍の勝利から80年目の記念式典での演説で、ウクライナへの侵攻がナチズムとの戦いであると再論し、西側の戦車供与には対抗手段を講じる、と語った。

他方、中国では昨年10月の共産党全国代表大会で習近平主席は、毛沢東時代の教訓から集団指導体制と最高指導者の定年制を導入した鄧小平の改革を無視して3期目の続投を決め、台湾侵攻をうかがわせる人事を断行した。習氏が毛沢東を超えるには台湾併合しかないからだ、というのが識者の見方。

世界の二大懸念国の指導者は、共に一人独裁の傾向を強めながら、古い時代の観念に縛られている。

地球規模の気象観測や生態調査、歴史的な統計データの集積で、人類は取り返しのきかないような環境危機に直面していることが明らかになった。もはや戦争しているような場合ではなく、限られた資源・食糧・エネルギーの開発・生産・分配・消費に、国を超えて協力することが求められている。このような時代に宗教者は何を発信すべきだろうか。

科学史家で比較文明史家の伊東俊太郎東大名誉教授は近著『人類史の精神革命』（中公選書）で、現在を、人類革命、農業革命、都市革命、精神革命、科学革命に次ぐ環境革命の時代と見ている。ヤスパースが「軸の時代」と呼んだ精神革命が、ギリシア哲学の善、儒教の仁、仏教の慈悲、キリスト教の愛と、いずれも他者への「横の超越」を目指すものだったが、環境革命は自然も対象に入れるとする。コロナ禍は、まさに自然との付き合い方を問い直すものだった。

伊東氏は、かつての精神革命は縦への超越を横に展開したケーションを周囲の動植物と取り合い、競争よりも共生によって命をつないでいる事実が明らかになり、その意味でダーウィンを超えた。

人が自然にかかわる営みの最大なのが一次産業で、そこでも見直しが進んでいる。一説によると、大気中に二酸化炭素が増えた最大の原因は農業で、土壌中には1兆7000億トンのカーボンが蓄えられていたが、既に4500億トンのカーボンが失われており、それは化石燃料の消費による排出量2700億トンより多い。植物に固定されているカーボンは5750億トンだが、大気中には9000億トンものカーボンがあり、それを再び土壌に戻すには有機農業が一番論理的だという。

こうした知見から、EUは川上から川下までの「農場から食卓戦略」で農地の25%を有機農業に転換する目標を掲げ、既に8・5%を達成したという。デンマークでは有機農産物のシェアが12%を占め、ベビーフードではオーガニックが主流になっている。それに対して日本の有機農業は0・5%にすぎない。

心理学では1996年、イタリアにあるパルマ大学でミラーニューロンが発見されて以来、「社会脳」が重要な研究対象になっている。それは、自己が他者の脳内でどのように表現されているかなど、両者がかかわる複雑な情報処理を担う脳細胞で、コミュニケーションを介して社会生活を営む人間にとって、仲間との協調や共感を保ち、相手の言動や視線から意図を予測し、危険を避ける能力は社会適応において非常に重要である。

スマホなどIT技術の個人化により、そのための利便性は高まっているが、一方的な情報により集団的な暴走を招く危険も世界的に出ている。

日本から世界へ発信

伊東氏は、環境革命の時代のキーワードとして、神道的な「ともいきのきずな」を提唱している。宗教史的に言えば、縄文時代からの日本人の自然観が、大乗仏教の慈悲や利他の教えに共鳴し、言語化されたもので、インドや中国を経て日本に到達した仏教が、日本的風土の中で変容・発展したと言えよう。

農水省は農林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指し、上述のEUをモデルに、国連が進めるSDGsに似た「みどりの食料システム戦略」に取り組んでいる。新しい時代にふさわしく地域が進化してこそ、それが世界にも展開されよう。歴史・文化が育んだ心性に基づく生き方を踏まえた地域の在り方として、日本から世界に発信したい。

下鴨神社で蹴鞠はじめ

平安時代のみやびを再現

京都市

賀茂御祖神社（かもみおやじんじゃ、下鴨神社）の新春恒例の蹴鞠はじめが1月4日午後、斎行された。平安時代のあでやかな蹴鞠衣装に身を包んだ7人前後の男女が、鹿革で作った鞠を地に落とさないように蹴り上げる。初めに本殿の儀が新木直人宮司により執り行われてから、鞠庭に場を移し、松枝に挟んだ鞠を解く「解き鞠の儀」が執り行われた。

続いて鞠人たちによる一座が始まると、「アリ」、「ヤァ」、「オウ」のかけ声とともに鞠を蹴り上げ、3度目に相手に蹴り渡す。右足だけで親指の付け根で蹴り上げ、高さは約4、5メートル、落とさずに続けられる回数を競う。木々の緑と朱塗りの門の前で平安時代の華麗な装束が、すばやく、ある時はゆったりと動く。蹴り上げる動作が優美に見えるのは、右足だけでヒザを伸ばしたまま一定の高さになるよう蹴り上げるからだろう。相手と競うスポーツではないが思いのほか運動量はあり、15分くらいで一座は終わる。

「まり場」は一辺15メートルの正方形、四隅に青竹を立て、その外側には主に松などの生木を植える。鞠の直径は約20センチ、重さは150グラムほど。衣装は鞠装束と呼ばれ、烏帽子（えぼし）、鞠水干（まりすいかん）、鞠袴、鞠靴を履き、手には鞠扇を持つ。

この日は、鞠庭の四方に立てられた青竹が揺れるほど風が強く、鞠人らはいつもと勝手が違い、鞠を追うのに最初は四苦八苦。しかし、体の動きが慣れて来て「アリ」、「ヤァ」、「オウ」の掛け声で巧みに鞠が空に浮かび続けると、参拝者からは拍手が沸いていた。

保存会の山本隆史理事長（73）は「今年はコロナ禍のため練習がほとんど出来ず、また風が強かったので勝手が違ったが、無事に奉納できてほっとしている」と話した。「蹴鞠（しゅうきく）保存会」（同市上京区）は明治末期に発足し、明治以後に途絶えかけた蹴鞠の伝統を継承している。

蹴鞠はもともと中国、殷の時代の雨乞いの儀式だったと伝わる。天地の調和が乱れて旦照りが続くので、その天地の間に鞠を蹴り上げて留めることによって、調和を取り戻そうとした。日本へは飛鳥時代に大陸から伝わり、『日本書紀』では皇極3年（644）、奈良法興寺（現・飛鳥寺）の蹴鞠で中大兄皇子が藤原鎌足と出会い、大化の改新のきっかけとなった記事が初見である。

蹴鞠初めで鞠を蹴る鞠人たち＝1月4日、下鴨神社

本紙定期購読のお申し込みは

■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。

宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税・郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分。こんな苦では、自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554